

「自然に学ぶ 暮らしに学ぶ く豊饒ほうじょうな自然に育まれてく」

評議員 加藤 さゆり

メインタイトルは、育てる会ホームページのトップに掲示されている私の好きな言葉です。子どもも大人も、豊饒な自然の中では、自己をみつめなおし、多くの学びがあると実感しています。随分昔の話になりますが、私は幼い頃、両親の留守中、近くに住む祖母と過ごす時間が時々ありました。

雪が降り積もる季節になると、長靴ではけるスキーで外遊びするのが楽しみになりました。記憶では、4歳ごろだったように思います。勿論、リフト付きのスキー場ではなく、祖母の家の前の庭が「遊び場」でした。記憶している範囲では自然の中で楽しかった思い出の原点です。

自然の中での遊び。私の場合は主としてスキーですが、その幼い頃の体験は、私の中に、大

事な軸を作ってくれた気がします。

中学生に上がる頃は、将来の夢に、子どもを産んだら、スキー場で、わが子を背負って一緒に滑ることが加わりました。今思い返しても、やけに具体的でおかしい気がします。でも、教室の窓から、雪が降り始めると、心が浮き立つ思いに駆られたことをよく覚えています。だから、将来、どんな仕事につきたいとかより、この楽しさは自分につながる人と共有したいという気持ちが強かったのかもしれない。

寒い朝

ところで、山間の学校で、寒冷地でもあり、冬がせまってくると、子どもたちは、先生に引率されて学校の近くの山に「ぼや拾い（枯枝ひろいをそう呼んでいたような）」に出かけました。ひとり、同級生の女の子で、家の手伝いでも同じようなことをしているのか、束ねてひもで結ゆわくのが、早くて手際のよい子がいたことを覚えています。まさに、暮らしに学び、身についた力です。

これに加えて、冬の教室は石炭ストーブで暖だんをとっていたので、冬の朝、登校すると、その日の日直の子どもは、ふたり一組になって校舎の外にある石炭小屋から各教室に石炭を運ぶのが日課でした。寒い朝、冬の教室を早く温めたいとみんな思っていたと思います。帰りの掃除

をさぼる子は時々いても、朝のこの仕事は、責任をもって役割を果たしていました。

子育ての楽しみ

さて、私は学校が終わると、放課後はひとりスキーを担いで、スキー場でひと滑りしてから帰宅するのが日課のようになっていました。装備はいまほど機能的なものを持ち合わせておらず、雪で濡れた手袋の中で手はかじかみ、冬の夕暮れの中で家路を急ぎました。

スキーは50数年経た今も私の友だちです。子どもが産れたら背負って滑るという中学生の時にみた夢は、娘を連れて冬のバカンスで訪れたスイスアルプスで実現しました。その時、山の頂^{いただき}で撮った写真は宝物です。

冬になればスキーに連れていき、一緒に滑りました。小学校低学年の頃から急斜面も怖がることなくチャレンジしていました。そして、小中高と毎年育てる会のスキー班で修業を積みました。成人した娘と今でも毎冬滑ります。でも、大学でスキー部だった彼女には、当然、技能もスピードも追い越され足元に及びません。今では、娘から「ゆっくりでいいよ」と声をかけてもらった上に、中間地点で待つていてくれるのが常です。

自然に育まれて

私は「アルプスの少女ハイジ」が大好きです。自然の中で成長していくハイジのように子育て

でもしていききたいと思いました。でも、我が家もふだんは都会で暮らしているので、夏休みや冬休み、まとまった休みを利用することになります。育てる会の活動は、自然の中での集団活動を通して成長する子どもたちの姿から、親にも子育ての喜びを提供してくれている気がします。現代においても大切な「自然に学ぶ 暮らしに学ぶ」。育てる会の活動はまさに実践の中に実現するための具体の要素が織り込まれています。

成長した子の中には、国内外で活躍する若者、また育てる会スタッフとして会の運営に携わってくださる若者も誕生し、とてもとても嬉しいこと、有り難いことだと感じています。

長野県は、「森のようちえん」もとても盛んなエリアです。私は、こうした自然をフィールドにした保育や育てる会の多様な活動を通して、子どもたちが自然の中で育つとともに、地元の人々、運営に携わる人々、保護者など関係者間の交流がさらに豊かなものになるといいなと思います。

人は、体験から学ぶことが何と多いことか。豊饒な信州の自然の中にあるとそう確信します。

かとう・さゆり

全国地域婦人団体連絡協議会事務局長、消費者庁参事官、長野県副知事、独立行政法人国民生活センター理事など歴任。公益財団法人育てる会評議員。2007年から2013年まで内閣府男女共同参画会議議員。